

# 未来を担う若者から多岐にわたる質問が

中学生に議会の役割や仕組みを学んでもらい、市政に対する関心を深めてもらおうと「中学生議会」が8月20日に市議会議場で開催されました。市内11中学校から代表24人が出席。議長役の生徒の議事進行により、地域の身近な問題からまちづくりに関する意見まで、中学生の視点からさまざまな質問が出されました。今回は、各議員の主な質問とそれに対する答弁の一部を紹介します。



壇上から堂々と質問する



真剣な表情で答弁を聞く

## 交通(バス)について

久住中学校

部活動の地域展開が進められている中で、休日の部活動参加のための移動手段を市が手配や整備をすることは可能ですか。

【教育長】部活動の地域展開に伴い、子どもたちには活動に際して移動が生じますが、その方法としては、スクールバスやコミュニティバスの活用は想定しておらず、徒歩、自転車、公共交通機関、保護者の送迎などを利用して移動することを予定しています。そのため、活動場所を学校でローテーションすることで、移動にかかる負担を減らせるようにするとともに、生徒

が公平に参加できるように検討しています。

## 成田市子ども計画について

成田中学校

「成田市子ども計画」子ども版の「いろいろな体験ができること」の「居場所」とは具体的にどのようなものですか。

【市長】子どもや保護者に食事を提供し、相互に交流を行うことができる「子ども食堂」や、子どもの宿題や自主学習を支援する「学習支援の場」、そして、子どもが自主的に工夫をして遊びを作り出すことができる「プレーパーク」といった取り組みがあり、市では、本年度から、これらを実施する団体に対

して、新たに開設する経費や運営に必要な経費の一部を助成することとしました。今後も、子どもがさまざまな体験活動を通じて、自己肯定感を高められるよう、地域で安全で安心して過ごすことができる多様な居場所の拡充を図っていきます。

## 生成AIを活用した教育について

西中学校

教育現場における生成AIの活用に関して、生徒や教員への支援としてどのような取り組みを考えていますか。

【教育長】今後の生成AIの導入に当たっては、最新の動向や効果的な実践事例に関する情報発

信を継続的にいき、まずは教職員のスキル向上を支援することで、児童生徒の学びを深めることにもつなげていきたいと考えています。また、児童生徒の個人情報保護や、不適切なコンテンツ生成のリスクを最小限に抑えるため、教育機関向けに設計された安全性の高い生成AIプラットフォームやサービスの導入を検討し、教員や児童生徒が安心して生成AIを活用できる環境の整備にも努めていきます。加えて、ICT支援員を活用し、生成AIに関する知識や活用方法についても円滑な支援ができる体制を構築していきます。

### 住環境について

吾妻中学校

**老朽化した上下水道の更新計画の現在の進捗と、今後の見通しについて教えてください。**

〔市長〕市営水道では、令和元年度に策定した「成田市水道事業施設更新計画」に基づき、重要度が高い基幹管路や老朽化により漏水発生の危険度が高い管路などから更新工事を実施していきます。引き続き計画に基づき、管路の更新を実施していきます。下水道については、令和元年度

に策定した「成田市下水道施設ストックマネジメント計画」に基づき、管渠や中継ポンプ場、マンホール蓋などの改築更新工事を実施しています。令和元年度に策定した第一期5カ年計画が終了し、本年度より、第二期5カ年計画に基づき施設の更新などを行っています。

### 水害対策について

中台中学校

**集中豪雨による道路の冠水について、どのような対策を行っていますか。**

〔市長〕市では、側溝の清掃や雨水がたまりやすい場所における舗装の補修をはじめ、街路樹の多い道路では、落ち葉が多くなる時期を含め、年6〜8回、路面清掃車による清掃を行い、大雨が予想される前には、職員などによるパトロールで排水桝の状態を確認しています。また、冠水の頻度や規模に応じて、周辺の側溝や排水桝の蓋をより排水性の高い製品へ交換しているほか、冠水した道路に車が誤って侵入することを防ぐため、注意看板の設置や、過去の冠水時における水の深さを路面に表示するなどの対策もしています。

### タブレット端末の使用について

公津の杜中学校

**タブレット端末を活用した教育について、市ではどのような生徒を育てたいと考えていますか。**

〔教育長〕市ではGIGAスクール構想の実現に伴い、令和3年度より導入されたタブレット端末を、市内全児童生徒に貸与しています。タブレット端末の機能を生かしたドリルアプリや、子ども同士が教え合い学び合う協働学習を効率的に行うためのアプリを導入し、個別最適な学びや主体的、対話的で深い学びの実現を目指すとともに、新しい時代に対応するための資力や能力を育てるところです。子どもたちが将来に夢と希望を持って自分の進むべき道を切り開く力を育てていけるよう、今後もICTを活用した教育を各学校に支援していきます。

### 農産物の地産地消について

大栄みらい学園

**学校給食で使用されている農産物のうち、市内で生産されている農産物はどの程度ですか。**

〔教育長〕市では、市内に9つある調理場において学校給食を作っており、調理場ごとに献立や使用する食材も異なりますが、米については、100パーセント、成田市産の米を使用しています。野菜類については、昨年度の成田市産の使用率は6・8パーセントでした。大栄みらい学園では、近隣の生産者の協力を得て、地元産の野菜を多く使



出席した中学生議員(敬称略)

久住中学校…木元 優里、宇田 陽向、  
椎名 永久  
成田中学校…野村 凜香、高岡 真弓  
西中学校…金田 陽稀、篠崎 光花  
吾妻中学校…吉田 海逢、對馬 色葉  
中台中学校…和田 英之、源河 みな実  
公津の杜中学校…大竹 俊輔、保沢 心音

大栄みらい学園…大竹 千尋、三谷 心絆  
成田高校附属中学校…玉造 湊、堀 惟寛  
玉造中学校…岩井 慶汰、浅野 真希  
下総みどり学園…櫻井 陽菜、島田 の乃羽  
遠山中学校…八木 唯愛、渡辺 良太、  
高仲 咲羽

用しており、成田市産の野菜の使用率は10・5パーセントでした。学校給食において成田市産の農産物を使用することは、児童生徒の食文化への理解を深め、地域経済の活性化や環境負荷の軽減にもつながることから、引き続き、地元産の農産物を多く取り入れた学校給食の提供に努めていきます。

用しており、成田市産の野菜の使用率は10・5パーセントでした。学校給食において成田市産の農産物を使用することは、児童生徒の食文化への理解を深め、地域経済の活性化や環境負荷の軽減にもつながることから、引き続き、地元産の農産物を多く取り入れた学校給食の提供に努めていきます。

## 空港について

### 成田高校付属中学校

市では飛行機の騒音対策として、どのようなことを行っていますか。

【市長】航空機騒音については、広範囲に影響を及ぼすなどの特性があることから、本市や成田空港、航空事業者などにより、騒音発生源の対策、空港構造の改良、空港周辺対策などの、さまざまな騒音対策を実施しているところです。このほか、成田空港周辺の独自対策として、法律で定められた騒音地域の外側

の隣接区域においても一定の防

音工事をするとともに、騒音地域において防音工事を実施した家屋などに対し、その維持管理費の一部を補助するなど、地域の実情に合った、きめ細かな騒音対策を行っています。

## 観光について

### 玉造中学校

成田山参道の景観保持の取り組みやPR方法について教えてください。

【市長】昨年度は、JRR東日本が主催する事業などと連携し、

「日本遺産北総四都市号」を掲げた特別列車において、北総四

都市の魅力を分かりやすく紹介する漫画を配布するとともに、車内アナウンスにて各市のPRを行いました。また、伝統的建築物が数多く残る仲町地区では「仲町街づくり協議会」を組織し、伝統的建築物などの保全や修理などの基準を示した「景観ガイドライン」を定めています。本市もその取り組みに対して、「街並み・街づくり事業補助金」を交付するなどの支援を行っています。

## 自然環境について

### 下総みどり学園

土壌汚染に対する市の考えについて教えてください。

【市長】有害物質で土壌が汚染されるなどの公害を防ぐことは、本市の自然環境や市民の生活環境を守っていくためにも、大変重要であると考えています。そのため対策として、市内の地下水の汚染状況を把握するため、工業団地周辺などの地下水について、環境基準を超える有害物質の有無を調査しています。また、市内に搬入される土砂などは「成田市土地の埋立て等による土砂等の土質の規制に関する条例」において規制をしており、土質の安全性を環境基準に準じて確認しています。農薬については、過剰に使用された場合や誤った使用方法などにより土壌などの環境へ影響が生じる可能性もあることから、安全に配慮した農薬の使用について広報なりたでお知らせしています。

## 健康で笑顔あふれるまちづくりについて

### 遠山中学校

市が考える「健康」の基準はどこまでか。

【市長】健康の考え方は人それぞれ異なるものです。平熱の感じ方、運動能力、病気の有無など、さまざまな要素から私たちは健康かどうかを判断しますが、これらは健康の一部であり、健康を考えると大切なものは、単に病気ではない状態を指すものではありません。市民が心身ともに充実した生活を送り、お住まいの地域の中でいきいきと活動できる状態を「健康」の基準と捉えています。市民一人一人が「健康で笑顔あふれるまち」で暮らせるよう、さまざまな施策を進めるとともに、市民が健康への意識を高め、自ら行う健康づくりへの取り組みを全力でサポートしていきます。

## 市長講演評



質問に答える小泉市長

皆さんの真剣なまなざしと堂々とした発言から、本市の未来を担う力強い可能性を感じました。健康や子育てなど、本市が直面している重要な課題をはじめ、多岐にわたる質問をいただきました。いずれも現状の課題を的確に捉え、実現に向けた具体的な視点を持っており、大変心強く思います。さまざまな人の意見を聞くということは、より良いまちづくりを進める上でとても大切なことです。皆さんからいただいた貴重な質問や提言は、今後、私のモットーであります「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まちなりた」の実現に向けて大いに反映をさせていただき、また、今後の本市の発展のために役立ててまいりたいと思います。本日の議会での経験をぜひ胸に刻み、将来どのような形であっても、まちづくりに関わっていただけることを願っています。



自席から追加の質問をする

市が考える「健康」の基準はどこまでか。

### 遠山中学校

健康で笑顔あふれるまちづくりについて

※くわしくは市民協働課市民相談室(☎20・1507)へ。